

中国の科学技術イノベーションにおける情報通信産業の政策形成

○華金玲（Jinling Hua）慶應義塾大学総合政策学部

Keywords：科学技術イノベーションシステム、産業育成、移動通信産業、政府の介入、市場主導

1 目的

中国インターネット情報センター（CNNIC）発『第53回中国インターネット発展統計報告』（2024年3月22日）によると、2023年12月、中国インターネットユーザ数は10億9,200万人、インターネット普及率は77.5%に達した。IPv6アドレス数は68,042ブロック/32、CNドメイン名数は2,013万、インターネットブロードバンドアクセスポート数は11億3,600万、IoT接続は23億3200万に達した。同期における5G基地局は337.7万、5G加入者は8億500万、5G料金プラン利用者は13億7,279万になり、5G携帯電話の普及率は46.6%になった。中国政府がこれまで進めてきた5Gとギガビット光通信からなる「ダブルギガビット」ネットワークの構築は、コロナ禍を経て中国デジタル社会のインフラの重要な一部となり、人々の情報メディアの利活用、企業・産業界のDX化の革新的発展を包括的に推進している状況にある。

本研究の目的は中国建国後長年推進してきた科学技術イノベーションシステムと、この全体像における情報通信産業政策の形成過程を整理し、中国が情報通信大国へと成長する過程における政府の市場介入を明らかにすることである。

2 方法

本研究は中国1949年建国後から長年模索し、実践してきた膨大な科学技術政策について文献調査し、中国科学技術イノベーション政策の全体像を概念的に整理する。中国科学技術の発展ベース産業政策を把握し、科学技術イノベーション政策における情報通信産業政策を中心に上げる。情報通信産業政策調査の対象範囲は、2Gから3G、4G、5Gまでの政策形成、及び6Gへの取り組みまでとし、各時期の政策形成を分析することによって、中国科学技術イノベーションにおけるこれまでの情報通信産業の政策形成を明らかにする。

3 結果&結論

以上の分析を通じて、情報通信産業への政策形成には終始政府による市場介入が伴い、2G、3G、4G、5G、6G各々の時期によってそういった政府の介入度に違いが見られ、中国政府が移動通信技術の普及と市場状況、世界情勢を見極めた上で時期に応じた主導性を発揮していることがわかった。

【主要参考文献】

華金玲「中国5G市場における政府介入と事業者戦略」、『Nextcom』Vol.54、KDDI総合研究所、2023年6月、40-49頁。

華金玲「中国の5G政策とデジタル社会の持続的発展」、菅谷実・山田徳彦編『情報通信産業の構造変容—一次世代移動ネットワークがもたらすイノベーション—』、白桃書房、2022年9月。

華金玲、小檜山賢二「中国電気通信業における消費者主導の政策転換—大連市小霊通（PHS）利用調査結果をもとに—」、『日中社会学研究第』第13号、2005年10月、198-215頁。

華金玲、小檜山賢二「中国における移動通信メディアの利用料金と地域格差—携帯電話と小霊通（PHS）を事例として—」、『日中社会学研究』第15号、2007年10月、47-72頁。